

V章 調査研究・学会発表実績

1 その他の調査研究事業

平成29年度

学会等の名称	題目・論旨(担当課名)	著者名(発表者名)等
第63回 大分県公衆衛生学会	<p>題目：北部地域健康なまち整備推進事業をとおした「たばこ対策」～関係機関が連動した取組の成果～</p> <p>論旨：大分県が実施した、平成28年度の県民健康意識行動調査結果に基づいて、当保健所では、平成29年度に「たばこに無縁(無煙)な生活サポート事業」を、薬剤師会、市(健康増進担当課、教育担当課)及び医師会など関係機関と連動し取組んだ。その取組経過と成果を整理・分析し、今後の「たばこ対策」の方向性として、市の横断的な取組としての戦略的な動きや、「中津禁煙おうえん薬局」を多く活用してもらえるように普及啓発の継続、「禁煙しようかと迷っている人」を確実に禁煙支援につなげる対策、薬剤師が学校で授業を行う体制の継続に向けた取組の必要がある。</p> <p>(健康安全企画課)</p>	<p>○八十田ちえみ 山上 剛 船山 貴子 内田 弘子 島崎 省吾 大塚 政秀 山本 俊郎 佐藤 京子 渡邊 則明 大神 貴史</p>
	<p>題目：宇佐地区における薬局薬剤師のおためし訪問事業実施結果について</p> <p>論旨：患者・家族及び在宅療養関係者に在宅療養における薬剤師の役割が理解されていないことから、薬剤師による在宅訪問薬剤管理指導はあまり浸透していない。このため、宇佐地区の関係団体と協力し、地域住民の薬の適正使用及び在宅療養の質の向上を図ることを目的として、薬局薬剤師の「おためし訪問事業」を実施した。訪問依頼があったのは6件だった。また、紹介者(宇佐地区のケアマネージャー及び不訪問看護師)へのアンケートを実施し、「事業は良い」と思うが、「本人・家族の同意が得られない」等、「事業実施は難しい」という回答が見られ、本事業及び在宅訪問薬剤師管理指導の課題の一部を把握できた。</p> <p>(衛生課)</p>	<p>○島崎 省吾 大塚 政秀 船山 貴子 内田 弘子 八十田ちえみ 山上 剛 山本 俊郎 佐藤 京子 渡邊 則明 大神 貴史</p>
	<p>題目：むし歯予防対策におけるフッ化物洗口実施施設の拡大に向けて～フッ化物洗口実施施設への訪問から見えた継続の秘訣～</p> <p>論旨：各市・歯科医師会と連携し、平成21年度からフッ化物洗口を中心とした歯科保健対策の強化に取組み、洗口実施施設は年々増加しつつある。今後、実施施設を更に拡大するため、実施施設へ訪問し、継続の秘訣を明らかにすることで、今後の洗口未実施施設への普及啓発のあり方について検討した。継続の秘訣として、①取組み開始前の施設管理者・担当職員等の理解向上・決断支援、②保護者の理解促進、③開始後の職員の負担軽減が明らかになった。そこで、未実施施設への今後の普及啓発活動として、「研修会等で引き続き管理者・担当職員への正しい知識・情報の提供」「管内の洗口実施施設の見学機会の提供」「新たに取組む際に職員の負担軽減方を共有する場の設定」を推進していく。</p> <p>(地域保健課)</p>	<p>○丸山 奈々 甲斐 ちひろ 船山 貴子 内田 弘子 佐藤 京子 大神 貴史</p>
	<p>題目：関係機関と取り組むひきこもり支援～アンケート調査を実施して～</p> <p>論旨：ひきこもりの背景や抱えている課題は様々であり、障がいや高齢、生活困窮などをきっかけに、多くの関係機関がひきこもり状態にある当事者を把握し、相談・支援を行っているが、その実態は明らかでない。今回、北部保健所管内におけるひきこもり相談・支援の現状と課題を把握し、地域での支援に役立てることを目的に、関係機関を対象にアンケート調査を実施した。アンケート調査では、ひきこもり状態にある当事者の現状の把握でき、支援が中断しないよう関係機関のネットワークづくりや支援者の支援技術のスキルアップの必要性が明らかになった。</p> <p>(地域保健課)</p>	<p>○原田 亜衣 中西 聡美 安部 志織 寶河原 靖子 小野 美香子 佐藤 裕子 佐藤 京子 大神 貴史</p>
	<p>題目：高齢者施設における感染症対策の効果的な支援の検討</p> <p>論旨：当保健所では介護老人福祉施設や介護老人保健施設を対象として、感染症対策検討会及び研修会を開催してきた。しかし、高齢者向け住まいが年々増加傾向であることから、有料老人ホームへの聞き取り調査を行い、今後の保健所の取組の方向性について検討した。聞き取り調査の結果、感染症発生報告時のタイムリーな個別指導及び情報提供や、施設特性に合わせた助言及び研修会の実施の必要性について考察した。</p> <p>(地域保健課)</p>	<p>○安部 志織 中西 聡美 寶河原 靖子 原田 亜衣 小野 美香子 佐藤 裕子 佐藤 京子 大神 貴史</p>
	<p>題目：結核接触者健診の現状と課題～高齢者施設の受診率向上を目指して～</p> <p>論旨：保健所では、高齢者施設と接触者検討会を実施し、接触者健診の説明や対象者、家族への対応方法を協議している。しかし、接触者健診対象者が利用施設を移動・利用中止などで追跡ができず未受診となってしまうケースがある。そこで、接触者健診受診率の向上を目指し、高齢者施設の聞き取り調査から改善策を考察した。受診率向上のための関係機関との連携や、対象者及び家族へのわかりやすい説明が必要である。</p> <p>(地域保健課)</p>	<p>○中西 聡美 安部 志織 寶河原 靖子 原田 亜衣 小野 美香子 佐藤 裕子 佐藤 京子 大神 貴史</p>

学会等の名称	題目・論旨（担当課名）	著者名 （発表者名）等
平成29年度 食品衛生監視員・と畜食鳥 検査員・狂犬病予防員研究 発表会	<p>題目：HACCP導入を前提とする新規菓子製造施設への事前指導について</p> <p>論旨：食品の安全性の更なる向上を図るためには、HACCPによる衛生管理を広く定着させていく必要がある。今回、管内の菓子製造業者から、HACCP導入を前提とする新施設の構造設備を検討してほしい旨の相談があった。HACCPはソフト面の管理であり、ハード面を要求するものではないが、その前提となる一般的衛生管理を徹底するためには、作業内容を考慮した適切な機器の配置、空調設備等が必要となる。相談のあった施設は3角形という食品製造施設としては機器の配置が難しいものであったが、作業動線を確認しながら、HACCP運用のしやすさを年頭におき助言を行った。今後はHACCPプランの構築、検証において指導・助言を行っていききたい。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○長谷川 綾美 橋口 祥子 衛生課食品衛生・薬事班
	<p>題目：管内認定小規模食鳥処理場におけるHACCP導入に向けた衛生管理実態調査</p> <p>論旨：平成26年4月、食鳥検査法が一部改正され、将来的なHACCPの義務化を見据えつつ、段階的な導入を図るための衛生管理基準が規定された。管内の食鳥処理場から出荷された食鳥肉に由来するカンピロバクター食中毒が発生していることから食鳥処理場の衛生管理レベルの向上は課題である。今回、HACCPの前提となる5S活動をはじめとする一般的衛生管理徹底のための指導及びHACCP導入推進のための普及啓発を実施した。一部の施設においてハード面、ソフト面の不備が見受けられたが、概ね衛生管理基準は遵守できていた。HACCPについては、ほとんどの施設において認知度、理解度が低く、継続的な指導を行っていく必要がある。</p> <p style="text-align: right;">（衛生課）</p>	○甲斐 雅裕 齋藤 陽一 衛生課食品衛生・薬事班